鹿市医狂壇

552 樋口　一風　選

兼題「故郷（ふいさと）」

天

上町支部　吉野なでしこ

久しか振い故郷て帰っ気を貰ろっ

（唱）桜島を眺めっ出てきた元気

（評）空港について、桜島を遠望すると、故郷に着いたと実感するものでした。何と言っても、桜島は鹿児島の人にとって、これぞ故郷で、鹿児島のシンボルだと思います。帰省する度に、桜島に向かって自問自答していました。故郷には母が居て、友達が居て、美味しい食があって、故郷を離れていたころの帰省は元気を貰いました。

料理は、食べておいしければ良いというものではあるまい。良く、「目で食べさせる」と言うけれども、見て食欲がわくような心配りが必要であるという意味であろう。色、盛りつけ方、器までが、大事なはたらきをすることになる。

折角の料理なのに、汚れた感じの皿で出て来た料理を見て、料理までが腐っているようで、食べたら中毒を起こすのではないかと思ったのであろう。いかにも女性らしい捉え方である。

雪雨い軒から軒くぼ横け走っ

市来野　頬朗

みぞれのことを、鹿児島では「ゆっきゃめ」と言うが、あいにく、傘のないところに、そのゆっきゃめが降り出したのである。勤め帰りか、外へ出かけた時のことであろう。

雨をよけながら、軒下から軒下を伝って走って行く姿が、中七、下五にうまくとらえられている。

今日は小雪。南国鹿児島には、雪はまだだろうが、ぼつぼつ本格的な冬であろう。

地

伊敷支部　谷山五郎猫

縄のれん故郷自慢で夜が更けっ

（唱）勝負がつかじ互い引っ分け

（評）故郷はなんといっても、自分の所が絶対一番なのです。だから自慢話になると引っ込める訳には行きません。句のようにアルコールが入ると、くどくどと何時間でも続きます。啄木でなくても、故郷の自慢をしたくなります。

「ぎら」には、「自慢」と「法螺」があります。この「ぎら」は、法螺でなくて自慢です。

人

紫南支部　二軒茶屋電停

生きちょっど故郷て一人母ん声

（唱）冗談どん言て元気で暮れっ

（評）明るいお母さんです。元気にしているかと電話をすると、「生きっおっど」と返事をします。

一人暮らしは寂しいが、子供に心配を掛けまいと、わざとおどけているのかもわかりません。

一緒に都会で暮らそうと誘っても長年馴染んだ田舎で暮らしたいと、同居を拒みます、でも本当は寂しいのです。

秀逸

五客一席　上町支部　吉野なでしこ

桜島小こ見えたや寂しゅなっ

（唱）後と髪ぬば引かるっ思い

五客二席　伊敷支部　谷山五郎猫

都会い住ん故郷ん味じ箸しゃ止まっ

（唱）母ん味じ似た少と甘め醤油

五客三席　上町支部　吉野なでしこ

故郷は離れっみたや良か所

（唱）生まれた所ゆまた見直せっ

五客四席　伊敷支部　谷山五郎猫

故郷ん昔の祭や今は無し

（唱）若け衆が居らじ惜し太鼓踊い

五客五席　紫南支部　加治屋犬好

六四の焼酎は故郷の匂がしっ

（唱）飲兵衛爺さんの鼻は確かじゃ

薩摩狂句鑑賞　190

三条風雲児著　から

（平成元年五月一日発行）

汚れ皿れ食傷をすそな料理ゆ食せっ

上原　千姫

薩摩狂句誌「渋柿」八五六号 から

（令和七年十一月一日）

オスプレイ鹿屋へ来っ言で心配なこっ

（唱）音もじゃっどん怖ぜた墜落

福島　篤丸

藤元　鬼瓦

爺の運転や彼処と此処ち娘が決めっ

（唱）車ん少ね道の広れ所

遠矢　酎多

焼酎を先き六の線迄い我がで注っ

（唱）注だた戻せじ先手必勝

中村　木強

マンションじゃ花火も出来じ早よ帰っ

（唱）孫もがっかい土産ん花火

楠八重　渓流

こやこやいで結構美味まか病院食

（唱）長か入院で薄味じ慣れっ

新地　誠

掃除じゃルンバ妻はドラマで缶ビール

（唱）亭主が相手をばせんこっじゃが

前村　泰山

子供ん遊っトランプ役が指図つしちょっ

（唱）鼻は低きどん所作はそっくい

伊地知　孝

楽しゅんも無かて焼酎ずい止めち医者

田舎でん茶飲んけ寄れち言た居らじ

備蓄米田舎じゃ五キロ手にゃ入らじ

前村　泰山

老夫婦よいしょこらしょで明けくれっ

中村　木強

へぼ将棋王様よっか飛車が大事

狂句募集

◎2号
題吟「不自由（せんぽ）」
締切 令和8年1月6日（火）

◎3号
題吟「支度（したっ）」
締切 令和8年2月6日（金）

◇選　者　樋口　一風

◇漢字のわからない時は、カナで書いてご応募くだされば選者が適宜漢字をあててくださいます。

◇応募先　〒八九二－〇八四六
鹿児島市加治屋町三番一〇号
鹿児島市医師会『鹿児島市医報』編集係
TEL　〇九九－二二六－三七三七
FAX　〇九九－二二五－六〇九九
E-mail:ihou@city.kagoshima.med.or.jp